

萩城（城の歴史）

関ヶ原の合戦の敗戦で、西軍の総大将であった毛利輝元は、長門・周防2国に移封されました。輝元は慶長9年（1604）日本海に面した長門国の萩に築城を開始しました。萩城は標高143mの指月山の山麓に本丸が築かれたことから指月城とも呼ばれます。城郭の構造は指月山麓の平城の部分と山頂の山城の部分とを合わせた平山城です。明治7年（1874）に天守閣などは解体されましたが、庭園や石垣と堀の一部が往時の姿をとどめています。

主なみどころ



1天守閣跡



2花江茶亭



3万歳橋・ミドリヨシノ



4東園跡



5銃眼（鉄砲狭間）土塀

高さ14.4m、下層は東西19.8m、南北16.2mで、5層の白亜の天守閣がありました。最上階は高欄をめぐらした桃山期の形式を示すものでした。

藩主の別邸にあった茶室を明治20年頃移築したものです。幕末の頃、13代藩主毛利敬親が家臣たちと茶事に託して時勢を論じ、国事を画策したと言われています。

万歳橋は嘉永2年（1849）に現在の江向の地に建てられた藩校明倫館にあったものです。ミドリヨシノは、がくが緑色であることからその名がつけられました。

萩城の二の丸にある藩主遊憩の回遊式庭園でした。6代藩主毛利宗広は、この地に古くからあった池を浚渫し、庭を作って東園と名付けました。

萩城の石垣の上には、鉄砲を撃つための四角い穴を開けた銃眼（鉄砲狭間）土塀が巡っていました。この土塀は、昭和40年に一部復元したものです。



歴史動画

周辺観光施設のご案内



萩八景遊覧船

遊覧コースは指月橋を起点に、堀内伝建地区内・平安伝建地区内の武家屋敷群などを川から眺める約40分の往復ルートです。



萩焼資料館

萩藩御用窯時代の萩焼など、江戸初期の古萩の名器が多く展示されており、400年以上続く萩焼の歴史に触れることができます。

利用時間・運休日
●3月～10月 9:00～17:00
（受付16:00まで 最終便16:20）
●11月 9:00～16:30
（受付15:00まで 最終便15:30）
※団体は予約をお願いします
（予約は10名から）
☎0838-21-7708
12月～2月、悪天候時休み

料	大人	大学	高校	中学	小学
料	1,200				600
金	（団体20名以上）				
	1,000				500
	（貸切10名以内）12,000				

利用時間・休館日
●9:00～17:00 無 休

料	大人	大学	高校	中学	小学
金	500				300

所在地



萩城跡指月公園（旧厚狭毛利家萩屋敷長屋共通）

開園時間・休園日

- 4月～10月 8:00～18:30
- 11月～2月 8:30～16:30
- 3月 8:30～18:00
- 無 休

料	大人	大学	高校	中学	小学
料	210				100
金	（団体30名以上）				
	120				60

旧厚狭毛利家萩屋敷長屋のみ100円／1回

萩市観光課

〒758-8555 萩市江向510 TEL0838-25-3139（平日のみ）

（一社）萩市観光協会

〒758-0061 萩市椿3537-3 TEL0838-25-1750

2018年10月発行



国指定史跡

萩城跡

Hagi Castle Ruins

国指定重要文化財

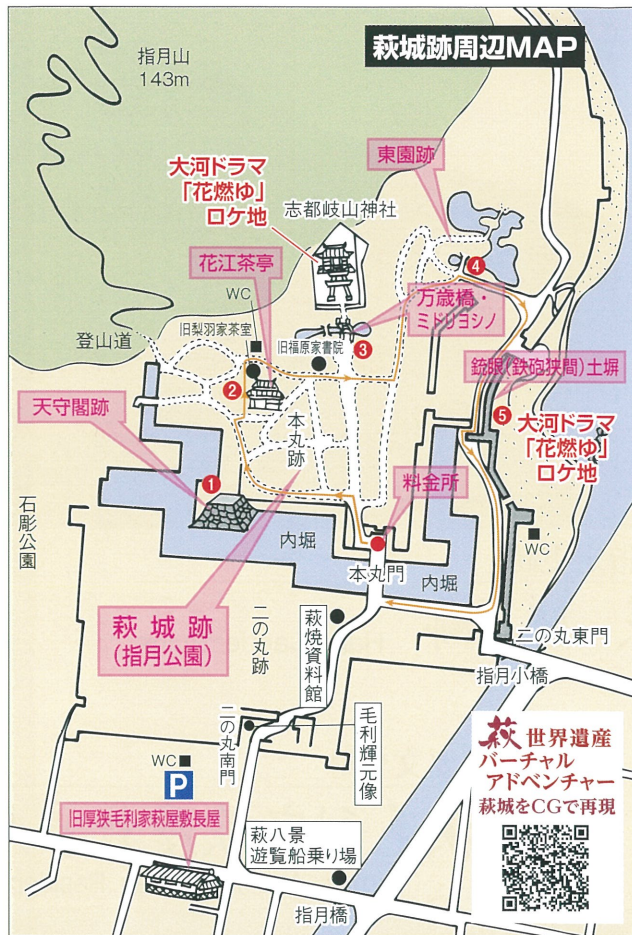
旧厚狭毛利家萩屋敷長屋

Former Asa Mōri Clan Residence

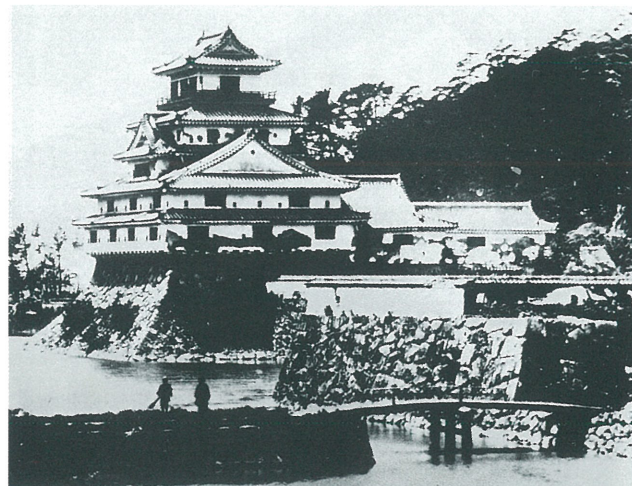


萩の歴史動画を見よう！

携帯電話やスマートフォン等でQRコードを読み取ると各史跡の歴史動画をご覧いただけます。
「幕末産業ものがたり」萩青年会議所2010年制作

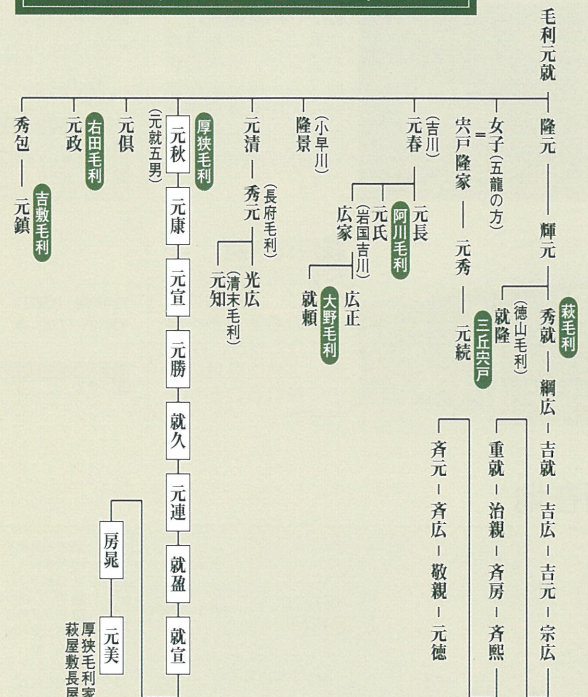


—主なみどころ散策ルート



明治初期頃 解体前の写真

萩毛利家と厚狭毛利家系図



萩藩において藩初にできた制度に「一門六家」があり、藩士中の最上階層で代々家老職につきました。
 首席は三丘穴戸で、以下二席右田毛利・三席厚狭毛利・四席吉敷毛利・五席阿川毛利および六席大野毛利であり、その系譜は上のとおりです。

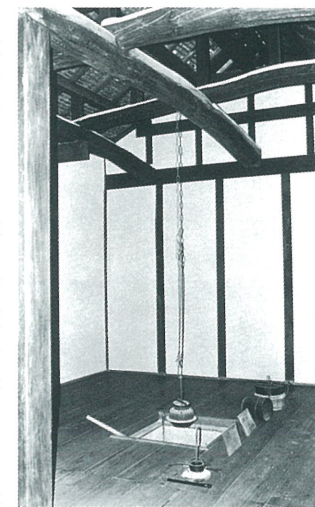
旧厚狭毛利家萩屋敷長屋

厚狭毛利家は、毛利元就の五男元秋を始祖とする毛利家の一門です。総石高8371石余のうち、主として厚狭（現在、山口県山陽小野田市）に知行地を持ち、ここに居館を構えていたので、厚狭毛利と呼ばれました。

厚狭毛利家萩上屋敷は、萩城の二の丸南門の南100メートルの要地にあり、面積約1万5500平方メートル（約4700坪）の広大なものでした。屋敷地の中にあつた主屋や庭園などは、明治維新前後に解体されてこの長屋のみが残っています。

この長屋は昭和41年（1966）6月に国の重要文化財に指定され、翌42年7月から解体修理に着手し、43年11月に完成しました。解体修理の際に発見された棟札から、長屋は10代元教（のち元美）の代、安政3年（1856）5月に建てられたことがわかります。用材はすべて領地の厚狭で調達され、切り込みを施したうえ記号と番号をつけて、海路萩まで送ってきたといわれています。

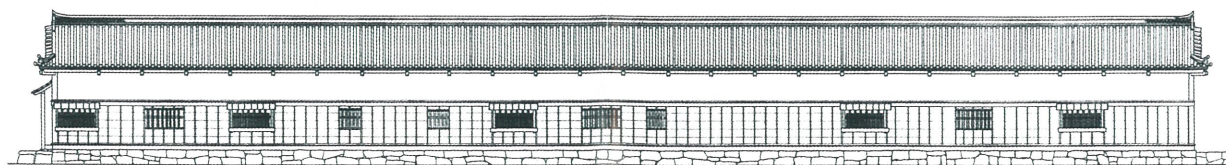
建物規模は桁行51.4メートル、梁間5.0メートルと長大な構造で、現在萩市内に残っている武家屋敷長屋の中で最も大きく、屋根は入母屋造り本瓦葺きで、出格子5か所、格子窓6か所を設けています。内部は東の座敷（部屋数10）、中の座敷（部屋数6）、物置（土間、二階造り）、西の座敷（部屋数3）および板の間の5つのブロックに分かれています。各座敷は、厚狭毛利家の家臣たちの詰所になっていたものと思われます。また、西の端にある板の間は中間部屋で、昭和43年の解体修理の際に復元しました。



中間部屋板の間

旧厚狭毛利家萩屋敷長屋図

旧厚狭毛利家萩屋敷長屋北面図



旧厚狭毛利家萩屋敷長屋平面図

